

3. 大会参加費・懇親会費

<大会参加費、懇親会費>

大会参加費ならびに懇親会費は、以下のとおりです。今回大会も前回と同様に、日本教育社会学会ウェブサイト上の「オンライン参加申込」システムを導入します（従来通り、大会当日の参加申込も可能です）。

また、大会参加申込時に、クレジットカードによる「オンライン決済」で参加費・懇親会費の事前支払いができるようになりました。大会参加費はいずれも事前の「オンライン決済」により1,000円安くなりますので、積極的にご活用くださいませ。

【大会参加費】

オンライン決済	会員（一般）4,500円	会員（学生）2,000円
当日	会員（一般）5,500円	会員（学生）3,000円
	臨時（一般）6,000円	臨時（学生）3,000円

【懇親会費】

オンライン決済	会員（一般）6,000円	会員（学生）3,000円
当日	会員（一般）7,000円	会員（学生）4,000円
	臨時（一般）7,000円	臨時（学生）4,000円

- (1) 参加費等の支払いは、原則として、①クレジットカードによる「オンライン決済」、あるいは、②当日に受付でお支払いいただく方法のいずれかをお選びください。「オンライン決済」をご利用の方は、8月25日（日）までに決済の手続きをお済ませください。懇親会は、大会校の都合により、学外で実施します。そのため、支払いはできるだけ、①クレジットカードによる「オンライン決済」をご利用ください。事前に受付しても期限内に参加費等の納付をしなかった場合、当日料金を受付でお支払いいただきますので、あらかじめご了承ください。
- (2) 「臨時（学生）」には、学部学生が含まれます。
- (3) 事前での「オンライン決済」/当日支払にかかわらず、会員（学生）ならびに臨時（学生）は受付で身分証明書の提示が必要です。必ず身分証明書をご持参ください。
- (4) 会員（学生）においては、身分証明書の提示がない場合や、新入会員で4月末日までに入会手続き（会費の振込と入会申込書の提出）が完了していない場合には、会員（一般）とみなされますので、十分に注意してください。
- (5) 大会開催中はキャンパス内の食堂が営業しております。キャンパス近隣の飲食店等もご利用ください。
- (6) 大会参加費について、会員（学生）は会員（一般）よりも2,500円減額されています。この減額分には、学会による大会参加負担軽減措置としての1,000円分が含まれています。

<発表要旨集録について>

今回の大会の発表要旨集録は、冊子版とUSBメモリー版の2種類から、受付でどちらかをお選びいただくことができます。ただし、参加者全員分を2種類用意することは難しいため、どちらかがなくなった場合は、ご希望に沿えないことをご了解ください。なお、冊子版の要旨集録は会員控室に閲覧用として数部ご用意いたします。

4. 研究発表の申し込み

◇発表申込みと要旨集録原稿の提出にSOLTI「大会発表申込システム」を使用します。

◇一般部会に加えて「テーマ部会」と「特設部会」が設置されます。

【ご注意】

「大会発表申込システム」の利用には **ID** と **パスワード** が必要となります。

⇒<ID・パスワードについて>も参照

利用方法については、SOLTI「大会発表申込システム・マニュアル」をご参照ください。同マニュアルは学会ウェブサイトに掲載されています。また、発表申込・発表要旨送付にあたっては、「第 71 回大会「大会参加登録」「発表申し込み」「発表要旨送付」の手順について」を参考にしてください。

日本教育社会学会ウェブサイト：<http://www.gakkai.ne.jp/jses/>

<発表申込期間>

発表申し込み期間は、4月22日(月)から5月24日(金)18時までとします。

研究発表を希望する会員は、個人発表ならびに共同発表ともに、上記の期間内に「大会発表申込システム」(SOLTI)を利用してお申し込みください。

<ID・パスワードについて>

「大会発表申込システム」の利用に必要なあなたの **ID** は、学会からの郵送物の宛名の下に掲載されている「会員番号」です。**パスワード**の方をお忘れの場合は、会員情報システム (<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/mypage/Educational>) の「ログインできない方はこちら」へお進みいただき、再取得をお願いいたします。

<発表資格>

個人発表・共同発表ともに、**発表資格があるのは、平成30年度学会年度の会費を、4月30日(火)までに納入された方です。新規入会者は、4月30日(火)までに入会手続き(会費の振り込みと入会申込書の提出)をされた場合、発表資格があります。**上記の条件を満たしていない場合、発表申し込みはできませんので、ご注意ください。発表資格の詳細は学会ウェブサイトでご確認ください。

<テーマ部会について>

テーマ部会は、フロンティア的テーマの開拓等を目的に、研究委員会があらかじめ公募したテーマに沿って部会を構成するもので、本大会では3部会の設定となりました。申し込み時に、テーマ研究での報告を選択することができます。ただし、申し込み件数が少ない時には部会が開設されません。その場合は、一般部会で発表していただきますので、**希望発表部会のひとつは、必ず、一般部会から選択してください。**

<英語特設部会の発表者公募>

国際委員会では第71回大会において英語の発表を行う特設部会を設けます。詳細については7ページの記載を参照してください。

<発表申し込み上の注意点>

- (1) 期日までに申し込みが行われない場合、受け付けられません。
- (2) 会員の発表は、一般部会・テーマ部会・英語特設部会のいずれか1回に限ります。ただし共同発表者における連名はこの限りではありません。
- (3) 共同発表の場合は、登壇者(複数の場合には代表する1名)のみが申し込みを行ってください。
- (4) 一般部会とテーマ部会での発表を申し込む場合は、13ページの「第71回大会「大会参加登録」「発表申し込み」「発表要旨送付」の手順について」に沿って、学会ウェブサイトの「大会発表申込システム」を利用して申し込みを行ってください。
- (5) 発表申し込みの受理確認は、「大会発表申込システム」から自動的に行われます。ご指定のアドレスに受領メールが配信されますので、必ずご確認ください。メールが配信されない場合は申込が受理されておりませんので、再度お試しいただくか、大会実行委員会までお問い合わせください。

- (6) 記入した発表申し込みの内容は、「大会発表申込システム」上でご確認いただけます。
- (7) 同一の研究成果をいくつかに分け、複数の部会で分担して発表する場合、「その1」「その2」等の名称で連続的に報告することを避け、各部会の発表に、独立性・完結性を持たせるように留意してください。
- (8) 大会直前の発表取り消しは大会運営に重大な支障をきたしますので、絶対にならないようにしてください。

<発表要旨原稿の提出>

- (1) 発表申し込み者（共同の場合は代表者）は、11 ページ以降の『発表要旨集録』執筆要綱に基づき、原稿を **6月17日(月) から7月17日(水) 18時**までに、「大会発表申込システム」を通じてお送りください（締め切り厳守）。「大会発表申込システム」による発表要旨原稿の受付は、**PDF形式**のファイルのみとなっております。
- (2) 本大会での発表要旨原稿の提出受付は、「大会発表申込システム」を用いて行います。「第71回大会「大会参加登録」「発表申し込み」「発表要旨送付」の手順について」（13 ページ）に沿って、発表要旨原稿を送付してください。郵送、FAX、電子メールでの送付は受け付けません。
- (3) なお、発表申し込みの際の発表題目がそのまま大会プログラムの題目となりますので、**発表申し込みの際の発表題目と『発表要旨集録』原稿の題目は必ず同じもの**にしてください（副題を含む）。なお発表申し込みの際の発表題目は、申し込み時に送付されるメールに記載されています。

<発表時間>

発表時間は、発表者の人数によって下記のようになります。

- 1名・・・発者 20分+質疑応答 5分
- 2名以上・・・発表 40分+質疑応答 10分

※3名以上の発表枠（発表 60分+質疑応答 15分）はなくなりました。ご注意ください。

【発表部会の編成について】

今大会では、下記の部会を設ける予定です。従来の一般部会に加えて、テーマ部会と英語特設部会が設定されております。一般部会もしくはテーマ部会を希望される場合は、「大会発表申込システム」を通じた発表申込の際に、下記の27の一般部会と3つのテーマ部会の、合わせて30の選択肢から、第一希望、第二希望を選択してください。なお、部会の選択にあたっては、下記のキーワードならびに以下の<テーマ部会の設定趣旨について>をご参照ください。

<一般部会>

【部会番号・部会名】	【キーワード】
1. 理論	学説/学史、理論、思想
2. 研究法	研究法、分析法、方法論
3. 教育の歴史社会学	教育史、学校史、民衆文化史、教育の社会史、教育文化史
4. 子ども	子ども論、子ども集団、子ども文化、発達/社会化、幼児教育
5. 青少年	青年論/若者論、青年集団、青年文化
6. 教育問題	逸脱/非行、青少年問題、問題行動、いじめ、不登校、学力問題、学級崩壊
7. 家族と教育	家族、家庭、親子関係、しつけ、社会化、家族問題
8. ジェンダーと教育	ジェンダー、性役割、フェミニズム、セクシュアリティ、女性学、男性学
9. 初等・中等教育	学校論、学校組織、学級/学校集団、児童生徒、学校文化、学校の機能
10. 教育方法・カリキュラム <small>(備前)</small>	授業方法、評価、カリキュラム、教科外活動
11. 教師	教師論、教師集団、教師文化、教員養成/研修、教員人事
12. 高等教育(1) 学生・キャリア	学生、キャリア、就職活動、大学生文化、人材育成
13. 高等教育(2) 制度・政策	大学財政、大学改革、専門学校(専修学校)、大学院、質保証、研究費
14. 高等教育(3) 職人 <small>カネ</small>	大学教員、大学事務職員、大学運営、大学事務、研究と科学、アカデミック・プロフェッション
15. 高等教育(4) その他	高等教育に関わるその他のテーマ

16. 地域社会と教育	地域環境、地域住民組織／PTA、余暇、ボランティア活動、学社連携、ノンフォーマル教育
17. 生涯教育	社会教育、生涯教育／生涯学習、成人教育、公民館／博物館、リカレント教育
18. 教育と差別・人権	差別、人権問題、解放教育、同和問題、性差別、民族差別
19. 進路と教育	進路指導／キャリア教育、職業教育、進路選択、入試／受験、塾／予備校
20. 社会階層と教育	階層・階級、社会移動、教育機会、学歴、文化資本、職業、社会移動、人口、学力
21. 教育政策・制度	教育制度、教育法規、教育政策、教育行財政、教育経営、学校改革、教育改革、教育の政治学
22. 特別支援教育	発達障害、教育的支援、インクルージョン
23. 異文化と教育	多文化教育、海外子女、帰国子女、留学生、在日外国人、エスニシティ、ニューカマー
24. メディアと教育	情報（化）、マルチメディア、IT、eラーニング、インターネット、視聴覚教育、SNS、マスメディア
25. グローバリゼーションと教育	グローバリゼーション、アジア・欧米他各国研究、国際教育関係機関（ユネスコ、OECD）、国際比較研究
26. 文化と教育	サブカルチャー、消費文化、大衆文化、エリートと文化
27. 経済と社会	教育経済論、産業／労働、職業制度、企業内教育、トランジション、人口変動

<テーマ部会>

【部会番号・部会名】

【キーワード】

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 31. 矯正教育と学校教育の接続、協働 | 非行少年、矯正教育、高校進学 |
| 32. 災害と教育 | 災害、教育、時間 |
| 33. 障害と支援の社会学 | 特別支援教育、インクルーシブ教育、教育的支援 |

<テーマ部会の設定趣旨について>

第71回大会（大正大学）におけるテーマ部会の公募を実施いたしました結果、3名の会員よりテーマをご提案いただきましたので、各テーマでの発表を公募いたします。提出された以下の【提案趣旨】等をご参照ください。

部会番号 31

「矯正教育と学校教育の接続、協働—非行経験による社会的排除を超えて—」

【提案者】

伊藤茂樹（駒澤大学）

【提案趣旨】

高校進学率が95%を超えて40年以上が経つが、非行傾向のある少年にとって高校への入学や卒業はハードルが高く、特に最も重い保護処分である少年院送致を経験した者の中では、高校に進学したり復学する者は少数派である。

少年院出院後の社会復帰の方途としては、従来就労が第一に考えられ、資格取得などの職業指導に力が入られてきた。現在でも出院時点で就労を選ぶ者が約76%を占め、復学、進学の21%を大きく上回る（いずれも希望を含む。平成29年）。しかし非行歴、処分歴というハンディを負いながら、中学卒または高校中退の学歴で社会に出ていけば二重のハンディとなって安定した就労は困難で、結果的に再非行、再犯の可能性を高める。

こうした認識に基づき、法務省は少年院での修学支援に注力を始めている。平成19年に少年院や刑務所での高等学校卒業程度認定試験（高認）の受験が可能になり、現在では高認合格をめざすコースが全国の少年院13庁に設置されている。高校進学をめざした情報提供や動機づけ、原籍校への復学に向けた連絡・調整、在院中の高校受験のための便宜提供なども広がったが、高校の側では非行歴、処分歴のある少年への忌避感強く、復学、進学を果たす者はまだ少ない。

矯正教育と学校教育はその内容や方法が大きく重なり、対象である少年たちも社会から施設に収容され、社会に復帰するという形で往来する。にもかかわらず、二つの教育は全く別の制度として存在してきたため、接続や連携、協働はスムーズでない。

本部会では、少年院、高校それぞれの現場で彼らの進路や将来、社会復帰はどのように図られているのか、その現状と課題を明らかにするとともに、ハンディキャップを抱える子ども、若者にとって修学や教科教育が持つ意味や意義について考える。

また非行少年や非行傾向のある少年は被虐待や貧困、被差別など、生育環境や社会経済的背景に問題が存在す

る場合が多く、福祉や教育による支援が必要であるが、非行経験ゆえに支援の必要性が認識されにくい。こうした不可視性を手がかりに、社会的排除の現状と打開策についても検討したい。

部会番号 3 2

「災害と教育」

【提案者】

清水睦美（日本女子大学）

【提案趣旨】

「未曾有」と称された東日本大震災 3.11 から 8 年が経過した。地震による大津波、さらにそれによる福島第一原子力発電所事故を伴う災害は、私たち個々人の日常生活だけでなく、社会や文化といった社会システムにも大きな影響を与え、その影響のもとで、震災後の年月が編まれてきている。教育に関わる事柄も、そうした営みの一つとして編まれている。

東日本大震災を契機として「災害」というテーマが、教育学研究でも取り上げられるようになった。日本教育社会学会大会では、2011 年 9 月の「特設ラウンドテーブル：災害と教育社会学」、翌 2012 年の一般部会での「震災と教育」がある。しかし、その後は、「災害」「震災」を柱とする部会は姿を消し、それらに関わる研究は、「地域」「地方」や「学校」「教師」、あるいは「高等教育」といったテーマのもとに分化されるようになった。こうした分化は、研究対象に与えた震災の影響を個別に明らかにすることができるものの、震災が社会システムに与えた影響を俯瞰することを困難にもする。加えて、東日本大震災以後、熊本地震や台風被害など大災害が起りつつも、それらの災害と教育の関係が真正面から論じられることはほとんどない。教育が、頻発する災害と、どのような関係を切り結んでいるのか、それは未だ判然としてはいない。

こうした研究状況を受け、災害と教育との関係を問うテーマ部会を呼びかけたい。特に、東日本大震災に見られるように、発災以後の復興に向かう道は複数の可能性がありながらも、私たちはその一つを選択し、時にその選択肢が問い直されたり、問い直されなかつたりしながら、震災後の時間を積み重ねてきている。そこで私たちは何を選択し、何を選択してこなかったのか。そうした選択は教育にとってどういう意味があるのか。そこに問題関心の主眼がある。ただし、こうした問いに答えるためには、まずは、災害と教育の関係を個別のフィールドに即して理解することが大事であり、そうした事例研究を積み重ねることにより、災害とその後の時間の積み重ねと教育がどのような関係で切り結ばれているかが明らかになると考える。こうした問題関心に基づき、今一度、「災害」というテーマのもとに教育社会学研究を束ね、検討するべき課題の視座を捉えてみたいと考える。

部会番号 3 3

「障害と支援の社会学—特別支援教育における「教育的支援」を問う—」

【提案者】

鶴田真紀（創価大学）

【提案趣旨】

教育の場で支援という語が多用されるようになって久しい。本学会では紀要第 92 集「教育と支援の間」において、すでにこの状況を取り上げ、「教育」や「指導」として語られてきた事象が「支援」へと転換されたこと、また学校の日常を成立させるために「教育」という行為に「支援」という新たなモメントが付加されるようになったことを指摘している（教育社会学研究 2013, p.5）。

この特集から 5 年の時を経て、支援への関心は一層高まっているように思われる。それは教育全体を取り巻く傾向でありながら、その際たる領域は、特別支援教育であるだろう。2003 年に特殊教育から特別支援教育への転換が主張され（文部科学省「今後の特別支援教育の在り方について」（最終報告））、2007 年の特別支援教育体制の開始以降、特別支援教育において「支援」の語は多用され続けている。さらに、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築」（文部科学省 2012）のために特別支援教育を推進させるという方針が提示される中で、学校現場では、障害のある子どもと障害のない子どもが「同じ場で共に学ぶ」ことがより強く目指されるようになってきている。その中で教師をはじめとした実践者には、障害を有する児童生徒に対して個々の教育的ニーズに応じた適切な「教育的支援」を行うことがより一層求められ、「効果的な」支援のあり方に対する教育的

的要請もまた高まってきている。特別支援における「支援」は障害のある児童生徒に対する対応の仕方を包括する用語として、日常の教育実践の細部にまで浸透している。

本テーマ部会では、特別支援教育における教育的支援という営みを教育社会学の立場から検討することを目的とする。教育的支援の興隆は、教育におけるいかなる現実を立ち上げることになったのか。特別支援教育における教育的支援の営みを問うことが、教育の世界全体における「支援」の今日的状況を照射することにつながると考えている。

<英語特設部会>

第 71 回大会（大正大学）における英語特設部会は、特定のテーマを設けず、広く発表を募集することになりました。様々な分野での研究蓄積を国際的に発信しようとする意欲ある方々の応募を期待したいと思います。

発表は英語によるものとし、質疑応答も原則英語を使用します。

発表申し込み期間は他の部会と同様、4月22日（月）から5月24日（金）18時まで、A4で2ページの発表要旨の受付期間は6月17日（月）から7月17日（水）18時までです。

なお、特設部会に応募された場合は、一般部会の発表に応募いただけないことをご承知おきください。

【部会の概要】

- (1) 部会日時：後日発表
- (2) 発表・質疑応答の言語：原則として英語
- (3) 発表要旨・資料の言語：英語
- (4) 発表時間：25分（発表20分＋質疑応答5分）

【発表の申し込み方法】

申し込みは、国際委員会英語部会担当（jses.international.session@gmail.com）宛にメールにてお願いします。メールには、以下の項目を明記してください。

- (1) 氏名、所属
- (2) 発表タイトル
- (3) キーワード3つ

お問い合わせは国際委員会 jses.international.session@gmail.com までお願いします。

The 71st JSES Annual Meeting will be held on September 12th & 13th at Taisho University. There is no specific theme for the International Session in English this year. We welcome any applicants who are willing to disseminate research findings in various fields to the international audience. All presentations in this session will be in English, and discussions will also basically be in English.

The deadlines are the same for the sessions in Japanese: applications should be made between April 22nd and May 24th by 6 pm; abstracts should be submitted between June 17th and July 17th by 6 pm.

Please note that if you apply for this international session, you cannot apply for any concurrent session in Japanese.

【About the Session】

- (1) Date and time: To be announced.
- (2) Language used in the session (oral): Mainly in English.
- (3) Language used in the session (written): English.
- (4) Length of one presentation: 25 minutes (20 minutes presentation and 5 minutes discussion.)

【How to Apply】

Applications and 2-page abstracts should be submitted to the Directorate of International Affairs by

email at jses.international.session@gmail.com.

In your application e-mail please give the following information:

- (1) name and affiliation
- (2) title of the presentation
- (3) 3 keywords for the presentation

Contact information: jses.international.session@gmail.com

<発表における機器の準備・使用について>

- ・本大会では、発表で利用するパソコン (Windows) とプロジェクターを大会校で用意します。
- ・接続ケーブルとして RGB ケーブルと HDMI ケーブルの用意がありますが、Mac 等のパソコンには対応しておりません。Mac 等のパソコンを持参する場合は、接続する専用のコネクタをお持ちください。
- ・機器の利用については、「大会発表申込システム」を通じた発表申込の際に事前に申請してください。
- ・大会校での複写は受け付けておりません。発表資料は、事前に十分な部数をご用意下さい。
- ・本大会において、無線 LAN の準備はいたしませんので、ご注意ください。

5. 公開シンポジウム

本大会では開催いたしません。

6. 若手研究者交流会 (9月11日(水) 大会前日)

若手の教育社会学研究者の自由な意見交換の場としての若手研究者交流会は、大会前日(9月11日)の16:00~18:00に開催いたします。開催場所は、大正大学西巣鴨キャンパス7号館(教室配当については未定ですので、大会案内最終版をご確認ください)となります。「11. 大会会場へのアクセス」を参照してください。

7. 大会期間中の一時保育(託児)室の設置について

大会期間中に一時保育(託児)を実施いたします。

一時保育は、事前予約制とし、応分の自己負担をお願いします。**8月8日(木)をお申し込みの最終締め切り**と設定しております。一時保育(託児)の実施態勢を整えるためには、事前の「利用希望」情報が不可欠です。そこで、**利用の可能性のある方**は、お子様の人数および生年月日、希望日・時間帯、授乳室の要などにつきまして、まずは**5月31日(金)までに**、大会実行委員会(メール: jses71@outlook.jp)までお知らせください。それを踏まえて具体的な実施内容を決定したいと思います。是非ともご協力をお願いいたします。詳細は、大会ウェブサイトにおいて、お知らせいたします。

8. バリアフリー対応について

大正大学では、全ての学生・教職員・来校者が安全で快適に過ごせるように、キャンパス内のバリアフリーを推進しています。詳細は、以下のバリアフリーマップをご覧ください(https://www.tais.ac.jp/life/support/barrier_free/)。

大会への参加・発表にあたり特別な措置が必要な場合は、大会実行委員会(メール: jses71@outlook.jp)までお問い合わせください。

9. 懇親会

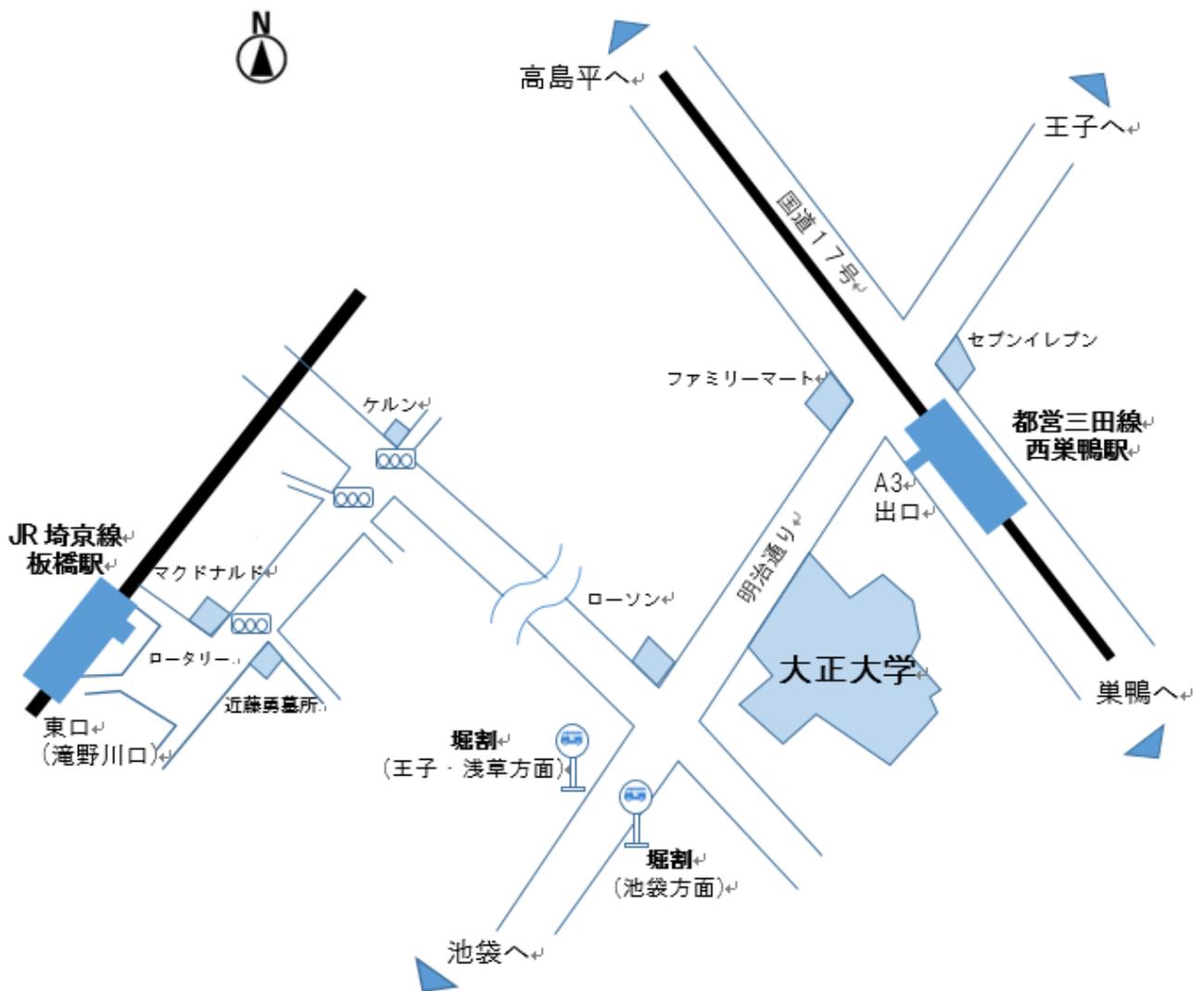
大会第1日、9月12日(木)19:20より、サンシャインクルーズ・クルーズで開催いたします。懇親会費につきましても、「3. 大会参加費・懇親会費」をご参照ください。

大会校から懇親会会場まで、バスを運行します。バスへの乗車方法は、大会当日にご案内します。

10. 宿泊のご案内について

本大会では、宿泊についてのご案内はいたしません。

11. 大会会場へのアクセス





『発表要旨集録』原稿提出のお願い（『発表要旨集録』執筆要綱）

このたび、日本教育社会学会第71回大会の研究発表にお申し込みいただいた方は、下記要綱にて、『発表要旨集録』の原稿を、**6月17日（月）から7月17日（水）18時**までに、「大会発表申込システム」にてご提出くださいますようお願い申し上げます。なお、共同発表の場合は、発表代表者が原稿全体を調整のうえ一括してご提出ください。発表要旨原稿の作成と提出にあたっては、下記の事項にご留意ください。

記

1. 次ページの「発表要旨の書式設定について」を参照の上、A4用紙（縦置き・横書き）にワープロで原稿を作成し、PDF形式のファイルに変換してから「大会発表申込システム」にてご提出ください。PDFファイルの変換方法については、学会ウェブサイトに掲載しておりますのでご参照ください。なお、実行委員会では、お送りいただいた原稿の下部にページ番号を記入する以外には原稿を一切加工いたしません。

「大会発表申込システム」には、日本教育社会学会のウェブサイトからアクセスできます。
日本教育社会学会ウェブサイト：<http://www.gakkai.ne.jp/jses/>

2. 原稿の枚数は、以下の通りです。
個人研究発表： A4用紙（縦置き・横書き） 2枚以内
共同研究発表：発表者1名の場合 A4用紙（縦置き・横書き） 2枚以内
2名以上の場合 4枚以内
3. 『発表要旨集録』の資料的価値を高めるために、ご用意いただく原稿は予告程度ではなく、可能な限り完成度の高い内容とするようお願いいたします。
4. 発表申し込みの際の発表題目がそのまま大会プログラムの題目になります。『発表要旨集録』原稿の題目は、発表申し込みの際の発表題目と、必ず同じものにしてください。なお、発表申し込みの際の発表題目は、申し込み時に送付されるメールに記載されます。
5. 原稿提出の締め切りは**7月17日（水）18時**です。期限までに提出されない場合は、『発表要旨集録』の該当部分を白紙のページとし、学会「運営内規」により発表を認めないことがありますのでご注意ください。発表申し込みの場合と同様、この期日の締め切りも厳格に適用させていただきますので、ご了承ください。
6. 原稿受理のお知らせは、「大会発表申込システム」から自動的に行われます。メールが配信されていない場合、配信されていても提出されたファイル名が確認できていない場合は、ご提出が完了していません。提出を再度お試し頂くか、大会実行委員会までお問い合わせください。

以上

発表要旨の書式設定について

(締め切り「大会発表申込システム」を利用して **7月17日(水) 18時必着**)

この枠が A4 判として

余 白 必ず余白を取ってください																	
余白 25mm	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;">発表題目 約 40mm</td> <td style="width: 40%; padding: 5px;"> メインタイトルは 16 ポイント サブタイトルは 14 ポイント </td> <td style="width: 30%; padding: 5px;">発表者名 (所属)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> 40-50 行 (1 枚目は発表題目のスペースのため 32-44 行) 本文は必ず 2 段組で </td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">11mm</td> <td style="padding: 5px;"> 本文は必ず 2 段組みで </td> </tr> </table>	発表題目 約 40mm	メインタイトルは 16 ポイント サブタイトルは 14 ポイント	発表者名 (所属)	40-50 行 (1 枚目は発表題目のスペースのため 32-44 行) 本文は必ず 2 段組で	11mm	本文は必ず 2 段組みで	余白 25mm									
発表題目 約 40mm	メインタイトルは 16 ポイント サブタイトルは 14 ポイント	発表者名 (所属)															
40-50 行 (1 枚目は発表題目のスペースのため 32-44 行) 本文は必ず 2 段組で	11mm	本文は必ず 2 段組みで															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="3" style="padding: 5px;">原稿の長さの目安</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">1 枚目 min</td> <td style="padding: 5px;">19×32×2</td> <td style="padding: 5px;">1216～</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">max</td> <td style="padding: 5px;">22×44×2</td> <td style="padding: 5px;">～1936</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">2 枚目 min</td> <td style="padding: 5px;">19×40×2</td> <td style="padding: 5px;">1520～</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">max</td> <td style="padding: 5px;">22×50×2</td> <td style="padding: 5px;">～2206</td> </tr> </table>			原稿の長さの目安			1 枚目 min	19×32×2	1216～	max	22×44×2	～1936	2 枚目 min	19×40×2	1520～	max	22×50×2	～2206
原稿の長さの目安																	
1 枚目 min	19×32×2	1216～															
max	22×44×2	～1936															
2 枚目 min	19×40×2	1520～															
max	22×50×2	～2206															
余 白 必ず余白を取ってください																	

必ず余白を取ってください

必ず余白を取ってください

第71回大会「大会参加登録」「発表申し込み」「発表要旨送付」の手順について

第61回大会より、「発表申し込み」「発表要旨送付」を<SOLTI>「大会発表申込システム」(以下、「大会発表申込システム」)を利用して行うことになりました。

「大会発表申込システム」の利用には **ID とパスワードが必要**となります。(2009年1月ブリテン No.147に同封されていた『重要なお知らせ』に記載の会員IDとパスワードです。それ以降に入会された方には別途お知らせしております。)

会員IDは学会からお送りしている郵便物の宛名ラベル、会費請求払込票にも記載されているものです。

パスワードをお忘れの方は、日本教育社会学会ウェブサイト上から会員情報システムにアクセスし、【ログインできない方はこちら】のボタンをクリックしてパスワードの再発行を行ってください。オンラインでパスワードを再発行するためには**有効なメールアドレスが会員原簿に登録されている**必要があります。本人確認が確実に可能な場合以外は**原則として事務局がパスワードをお教えすることはありません**。

1. 大会参加事前申し込み(オンライン決済システム)の手順

第69回大会(於:一橋大学)より、学会ウェブサイト「大会参加登録」システムを導入し、そこでクレジットカードによるオンライン決済で参加費・懇親会費を支払うことが出来るようになりました。

- ①日本教育社会学会ウェブサイトから「大会参加登録」にログインしてください。
(その後、画面の指示に従って大会参加の申し込み手続きをお進めください)
- ②参加登録後、申込完了画面から「クレジットカードのオンライン決済で参加費を支払う」へお進み頂き、決済をお願いいたします。

2. 大会発表申込の手順

★4月22日(月)から5月24日(金)18時までです。それ以外は受け付けません。

- ①日本教育社会学会ウェブサイトから「大会発表申込システム」にログインしてください。
- ②「大会発表申込システム」にログインすると、大会発表申し込みメニュー画面に「日本教育社会学会大会」が出ていますので、それをクリックして下さい。
- ③メニューから「大会発表/報告申込」をクリックしてください。
そのあとは、必要事項を記入してください。
STEP4の「その他の情報」に記入を終え【次のStepへ(Next Step)】をクリックすると、申込情報の確認画面が表示されますので、【申込情報登録】をクリックして申込を完了してください。申込を完了されるとご指定のアドレスに受領メールが配信されますので、必ずご確認ください。メールが配信されていない場合には申込は受け付けられておりません。
- ④なお、申し込みにあたっては、以下の点にご注意ください。
 - ・ Step-1: 申込者情報の入力の画面で発表者の所属を明示してください。
 - ・ Step-2: 発表種別、希望部会、題目、キーワード(3つ以内)、要旨/内容説明を記載してください。
 - ・ Step-3: 連名者情報の入力の画面で共同発表者の所属先を明示してください。
<Step-1およびStep-3の「所属先」は原則として下記基準に従ってください>
 - ・ 表示は大学・機関名までとする。
 - ・ 非常勤の場合には、「〇〇大学(非常勤)」とする。
 - ・ 大学院生(研究生の場合も含む)の場合は、「〇〇大学大学院」とする。

※教員は、大学院所属の場合でも「大学院」を記載しない。

- ・複数の所属のある場合、どの所属を記載するかは、申込者に任せる（複数を記載してもかまわない）。
- ・所属先がない場合や上記にあてはまらない場合には、申込者に任せる。
- ・「非会員」の場合、Step-3：連名者情報の入力で「連名者（登壇発表）」となることはできません。

3. 発表要旨送付の手順

★6月17日（月）から7月17日（水）18時までです。それ以外は受け付けません。

- ①発表要旨の原稿を作成し、PDF ファイルに変換しておいてください。
（PDF ファイルへの変換方法については、学会ウェブサイトにて情報を掲載しています）
- ②「2. 大会発表申込手順」と同様に、日本教育社会学会ウェブサイトから「大会発表申込システム」にログインしてください。
- ③「大会発表申込システム」にログインすると、大会発表申込メニュー画面に「日本教育社会学会大会」が出ていますので、それをクリックしてください。
- ④メニューから「原稿の投稿」をクリックしてください。上記①で作成した PDF ファイルを指定し、「原稿の投稿」で完了です。
- ⑤提出した発表要旨原稿を変更したい場合等は、発表要旨送付期限内に限り「原稿の投稿」の箇所から再度提出が可能です。

【注意】

6月17日以降の発表要旨送付時に、発表内容や発表順位など「大会発表申込システム」に記載した申し込み内容を変更しても、大会プログラムには反映されません。